

### 3 洪水対策

- 
- (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知
  - (2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処
  - (3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先
-



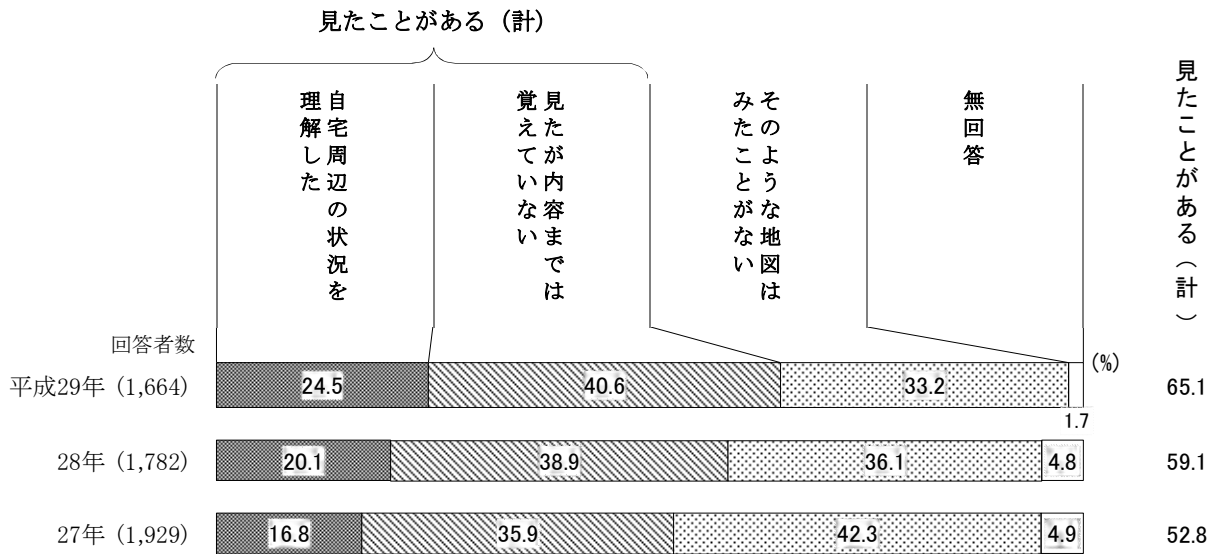
### 3. 洪水対策

#### (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知

■ 【見たことがある】は6割台半ばで、確実に上昇

問11 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」をご覧になったことがありますか（○は1つだけ）。

図3-1-1 経年比較／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



※「自宅周辺の状況を理解した」は、27年度「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」。

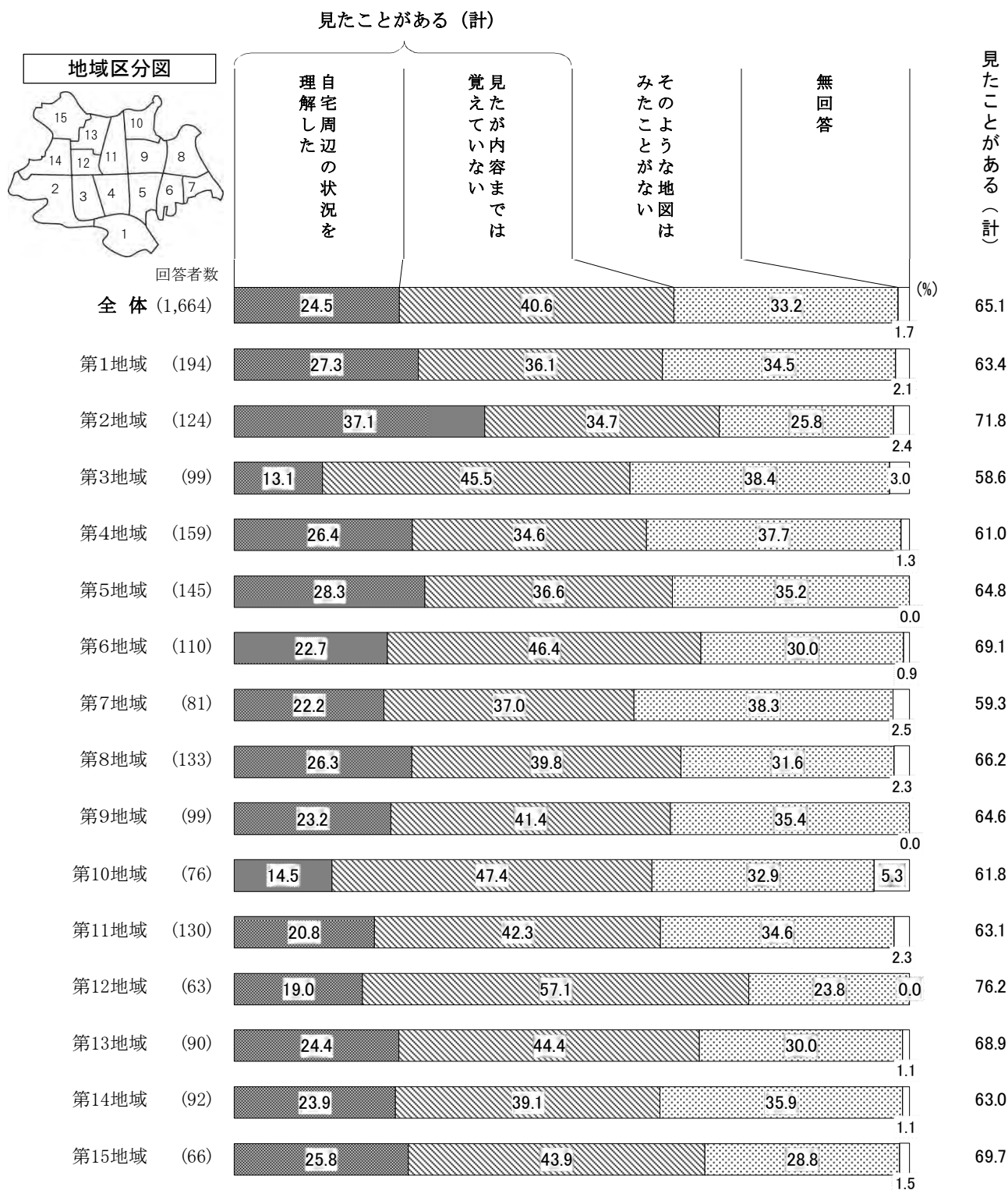
『足立区洪水ハザードマップ』で「自宅周辺の状況を理解した」が24.5%で、これに「見たが内容までは覚えていない」(40.6%)を合わせた【見たことがある】は65.1%を占めている。一方、「そのような地図は見たことがない」は33.2%となっている。

経年でみると、【見たことがある】は、平成28年の59.1%から、今回65.1%へと増加している。

第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

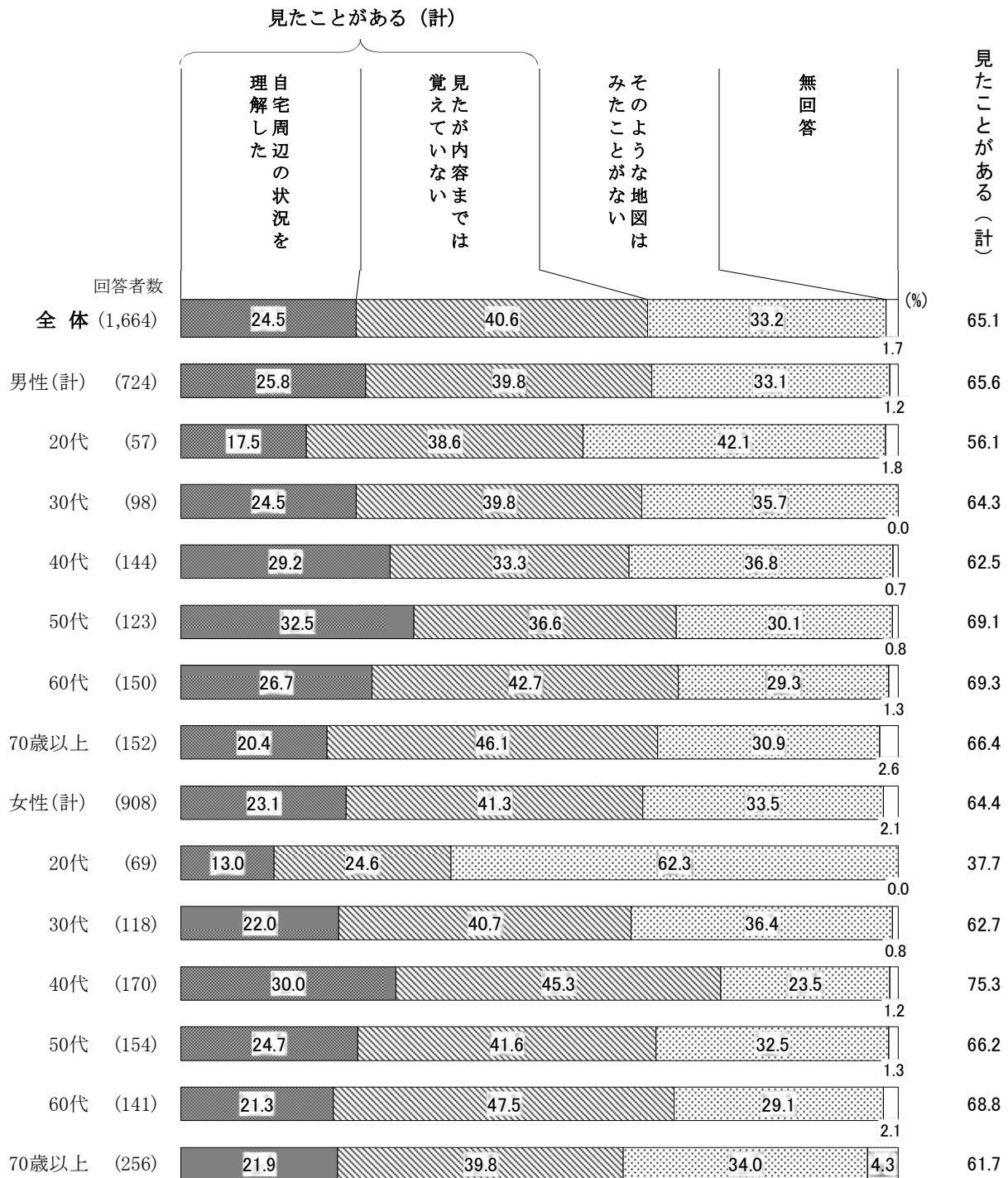
地域別でみると、第12地域で【見たことがある】が76.2%と最も高く、これに第2地域が71.8%で次いでいる。

図3-1-2 地域別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



性別でみると、【見たことがある】についてほとんど男女差はみられない。  
 性・年代別でみると、男性では、20代を除く各年代で【見たことがある】が6割を超えている。  
 女性では、40代で【見たことがある】が75.3%を占めているほか、20代を除く他の年代でも6割を超えている。

図3-1-3 性別、性・年代別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知

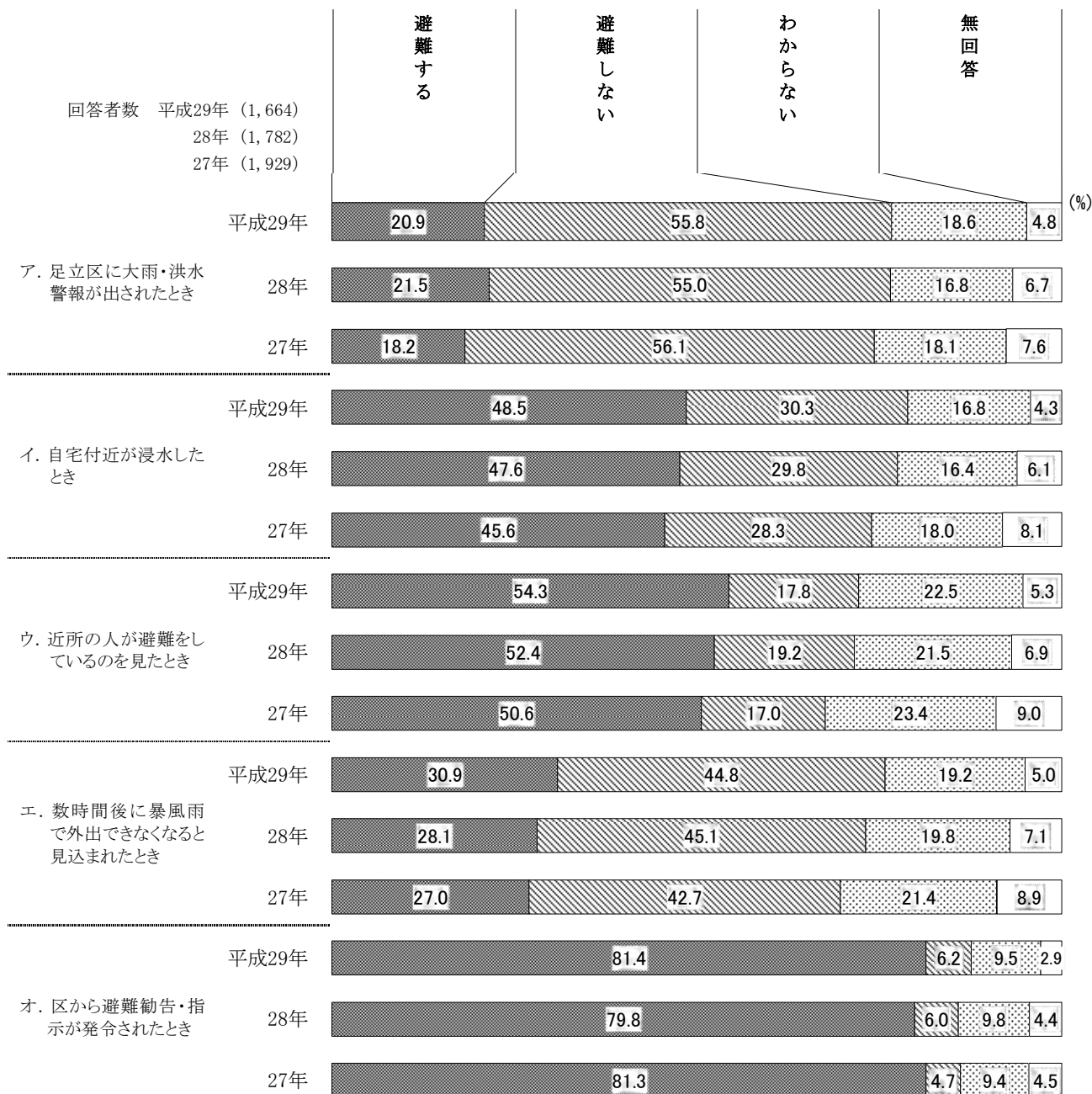


(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処

■ 〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉は「避難する」が8割強

問12 河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、以下のア～オまでの情報を知ったとき、あなたは自宅から避難しますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

図3-2-1 経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処



河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、どのような情報を知って避難するかを聞いた。

「避難する」が高い順にみると、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉が81.4%で最も高く、以下〈近所の人が避難しているのを見たとき〉(54.3%)、〈自宅付近が浸水したとき〉(48.5%)の順で続いている。

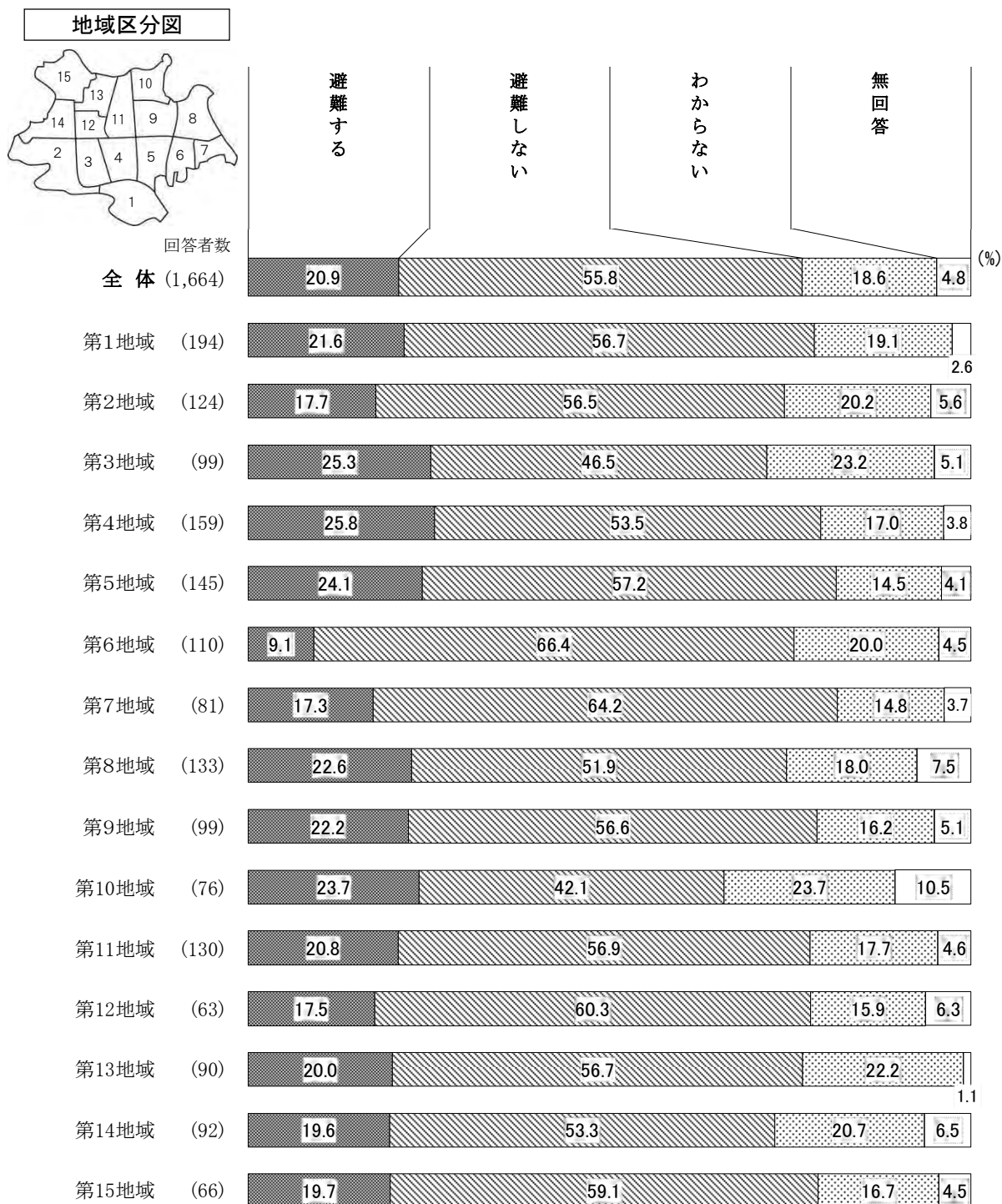
経年でみると、回答の順位に変動はなく、比率にも大きな変化はない。

第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

〈足立区に大雨・洪水警報が出たとき〉について、地域別で見ると、第6地域、第7地域では、いずれも「避難しない」が6割台半ばを占め、他の地域より高くなっている。

図3-2-2-① 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

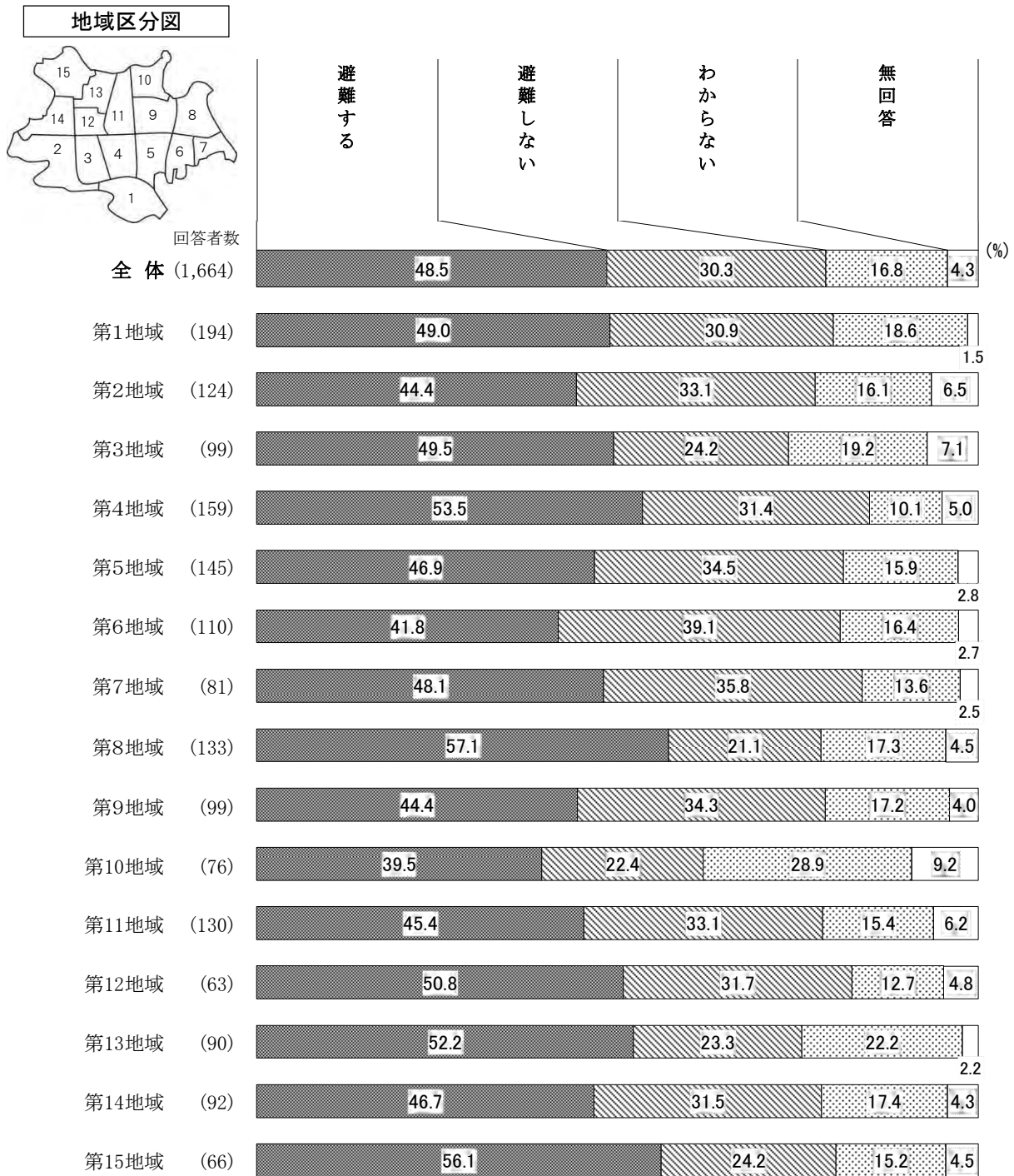
／足立区に大雨・洪水警報が出たとき





〈自宅付近が浸水したとき〉について、地域別でみると、第4地域、第8地域、第12地域、第13地域、第15地域では「避難する」が5割を超え、他の地域より高くなっている。また、第1地域、第3地域、第7地域も「避難する」が5割近くを占めている。

図3-2-2-② 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処／自宅付近が浸水したとき

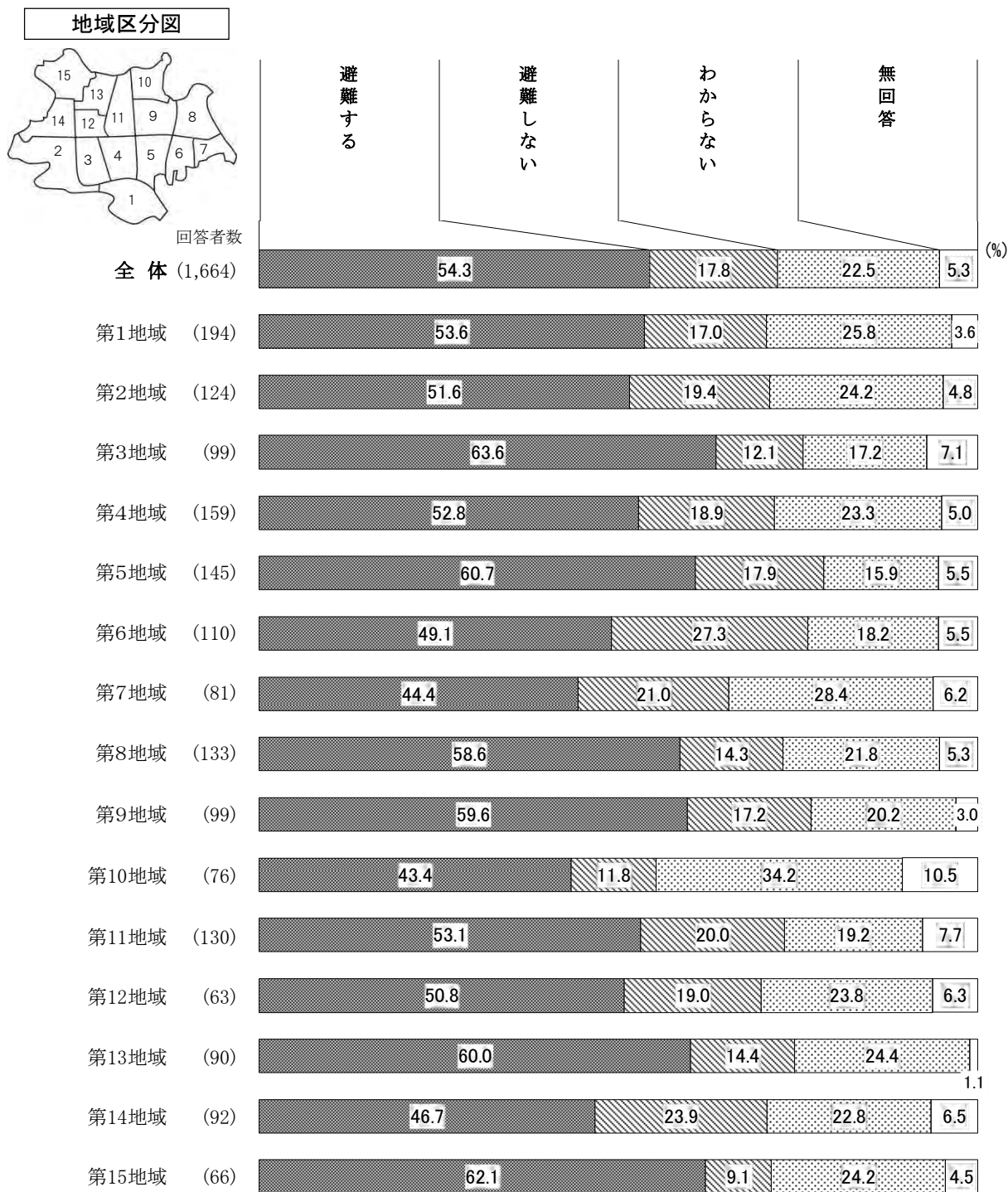


第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

〈近所の人が避難をしているのを見たとき〉について、地域別で見ると、第3地域、第5地域、第8地域、第9地域、第13地域、第15地域は「避難する」が6割前後となっており、他の地域より高くなっている。

図3-2-2-③ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

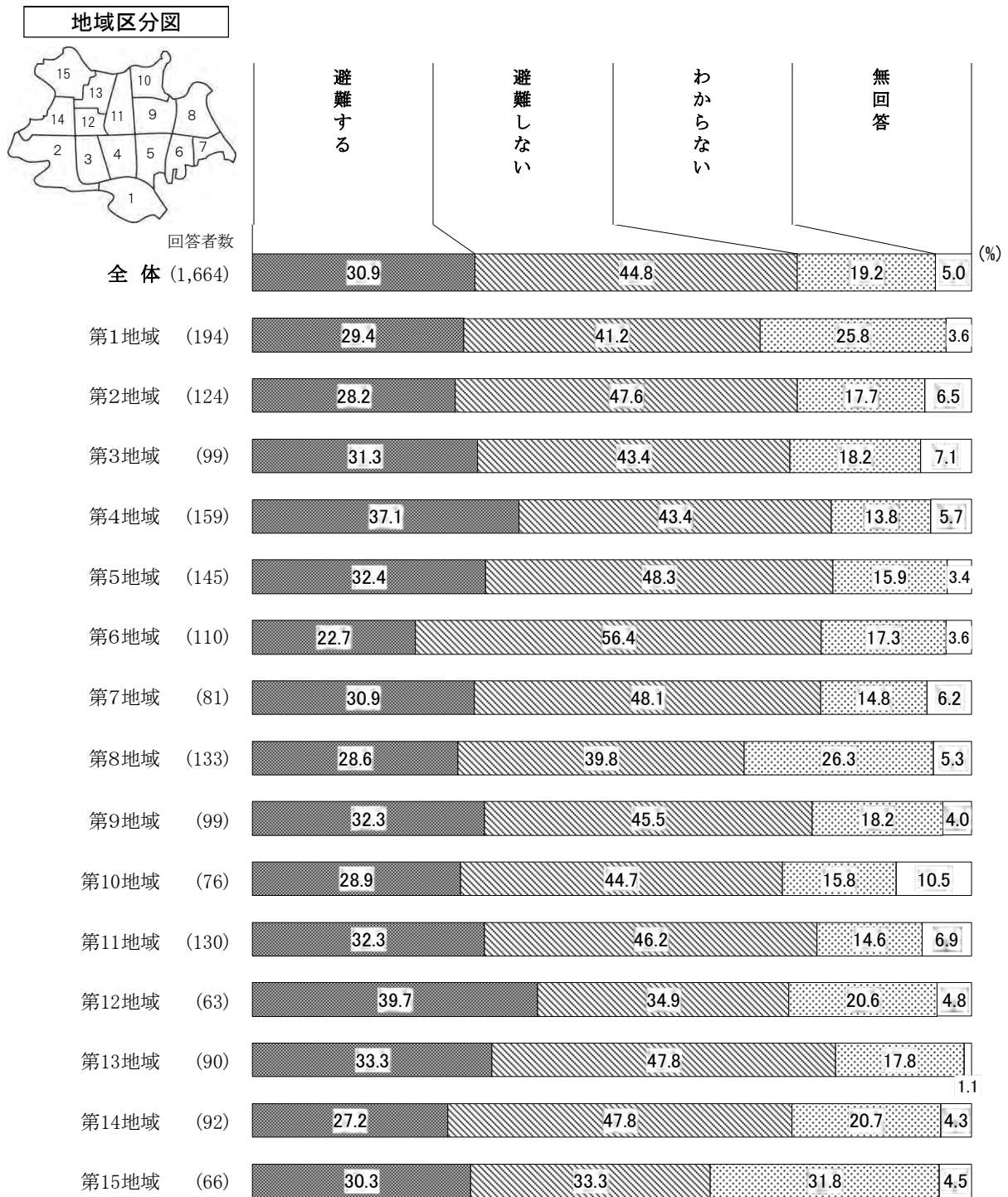
／近所の人が避難をしているのを見たとき



〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉については、第12地域で「避難する」が39.7%と最も高くなっているほか、第3地域、第4地域、第5地域、第7地域、第9地域、第11地域、第13地域、第15地域でも3割を超えている。

図3-2-2-④ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき

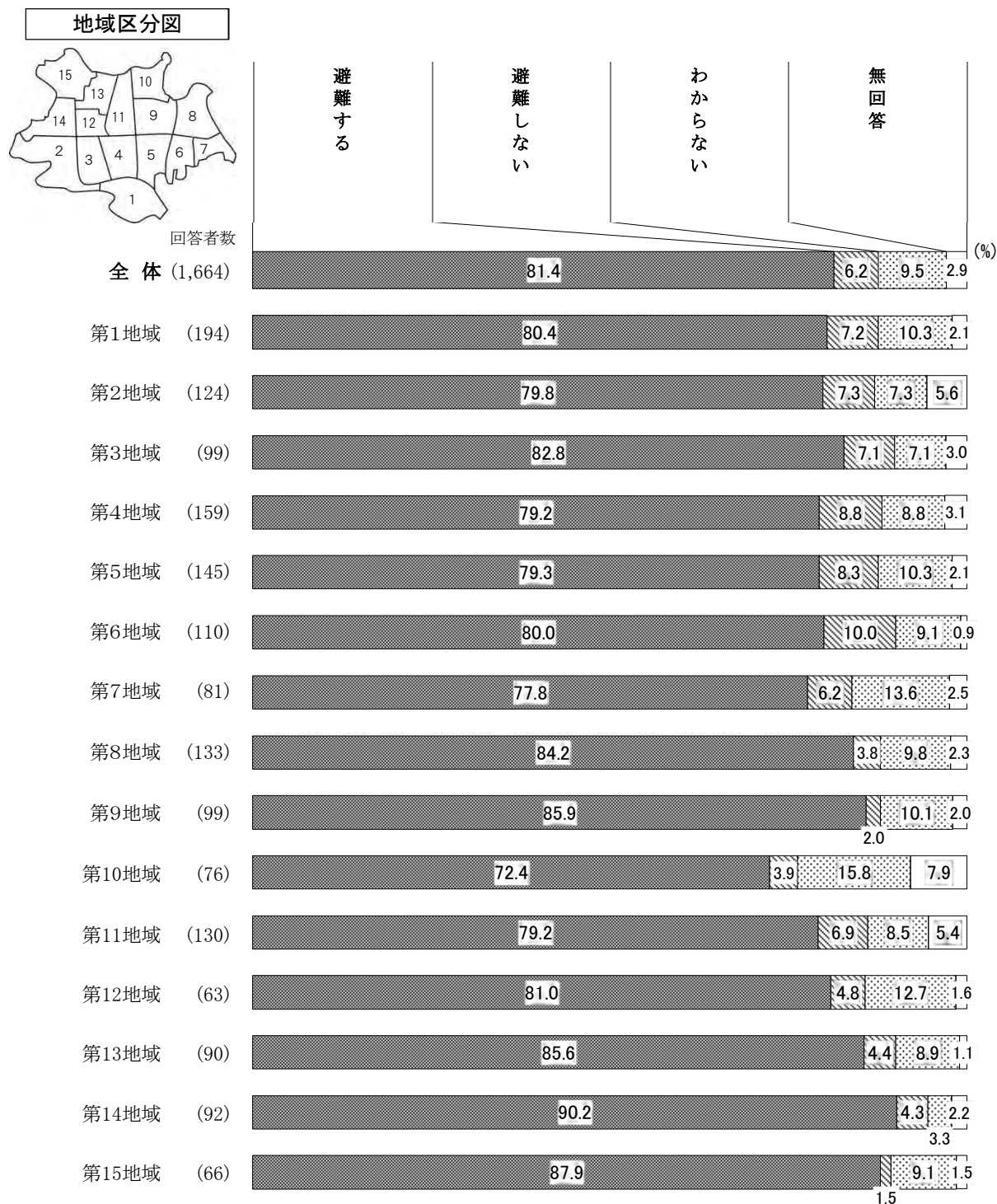


第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

「区から避難勧告・指示が発令された時」について、地域別でみると、第14地域で「避難する」が90.2%と最も高くなっているほか、第1地域、第3地域、第8地域、第9地域、第12地域、第13地域、第15地域でも8割を超えている。

図3-2-2-⑤ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／区から避難勧告・指示が発令されたとき

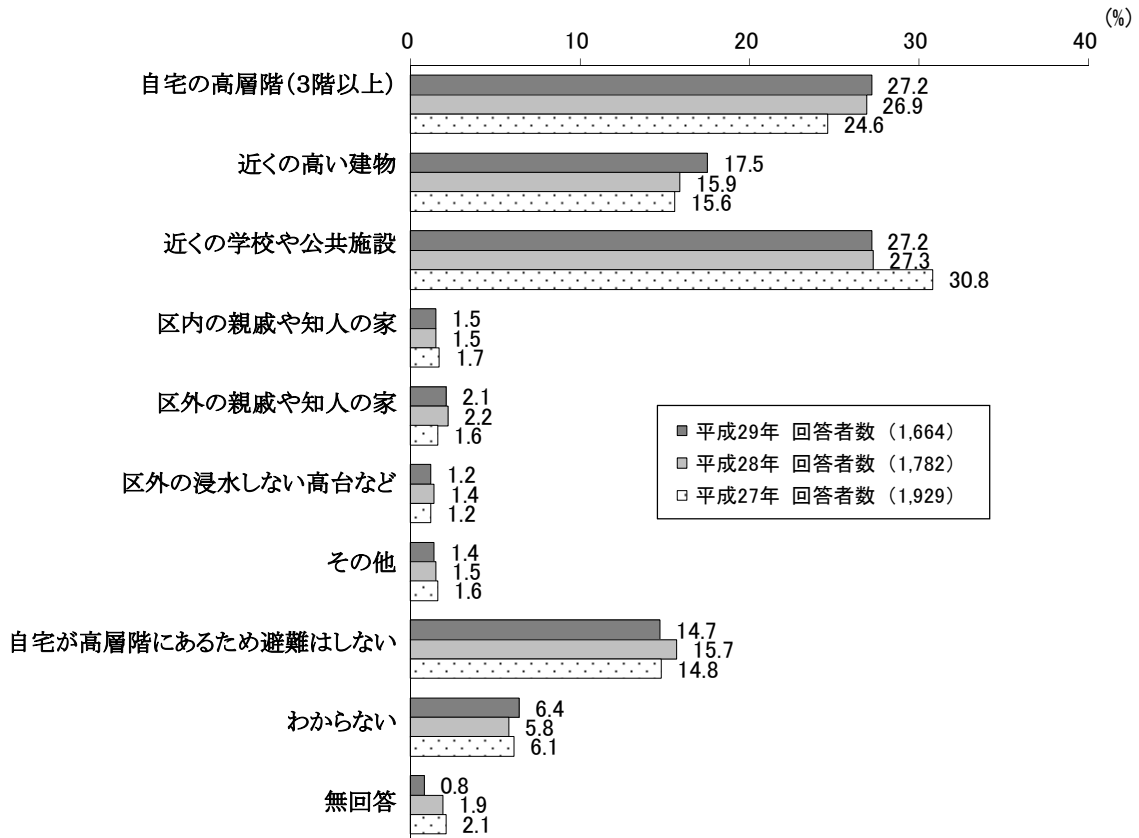


(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先

■「自宅の高層階（3階以上）」「近くの学校や公共施設」が2割台後半

問13 荒川がはん濫すると、最悪2階建ての建物の屋根まで浸水（5.0m以上）すると想定されます。そのとき、あなたは最初にどこに避難しようと思いますか（○は1つだけ）。

図3-3-1 経年比較／荒川がはん濫した際の最初の避難先



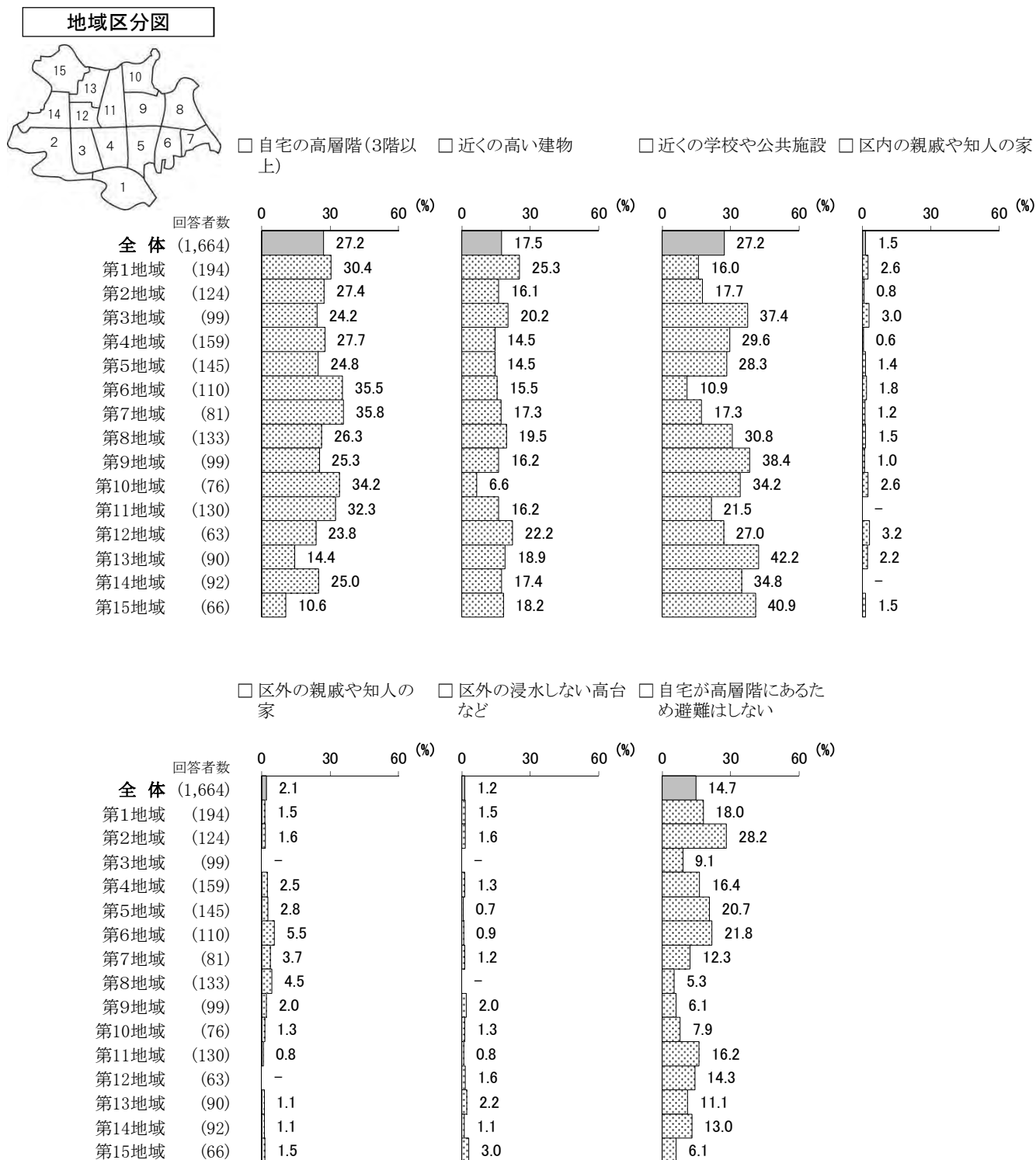
荒川がはん濫したときの最初の避難先としては、「自宅の高層階（3階以上）」と「近くの学校や公共施設」がいずれも27.2%で最も高く、次いで「近くの高い建物」が17.5%となっている。

経年でみると、「自宅の高層階（3階以上）」と「近くの学校や公共施設」とも、今回横ばいとなっている。

### 第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

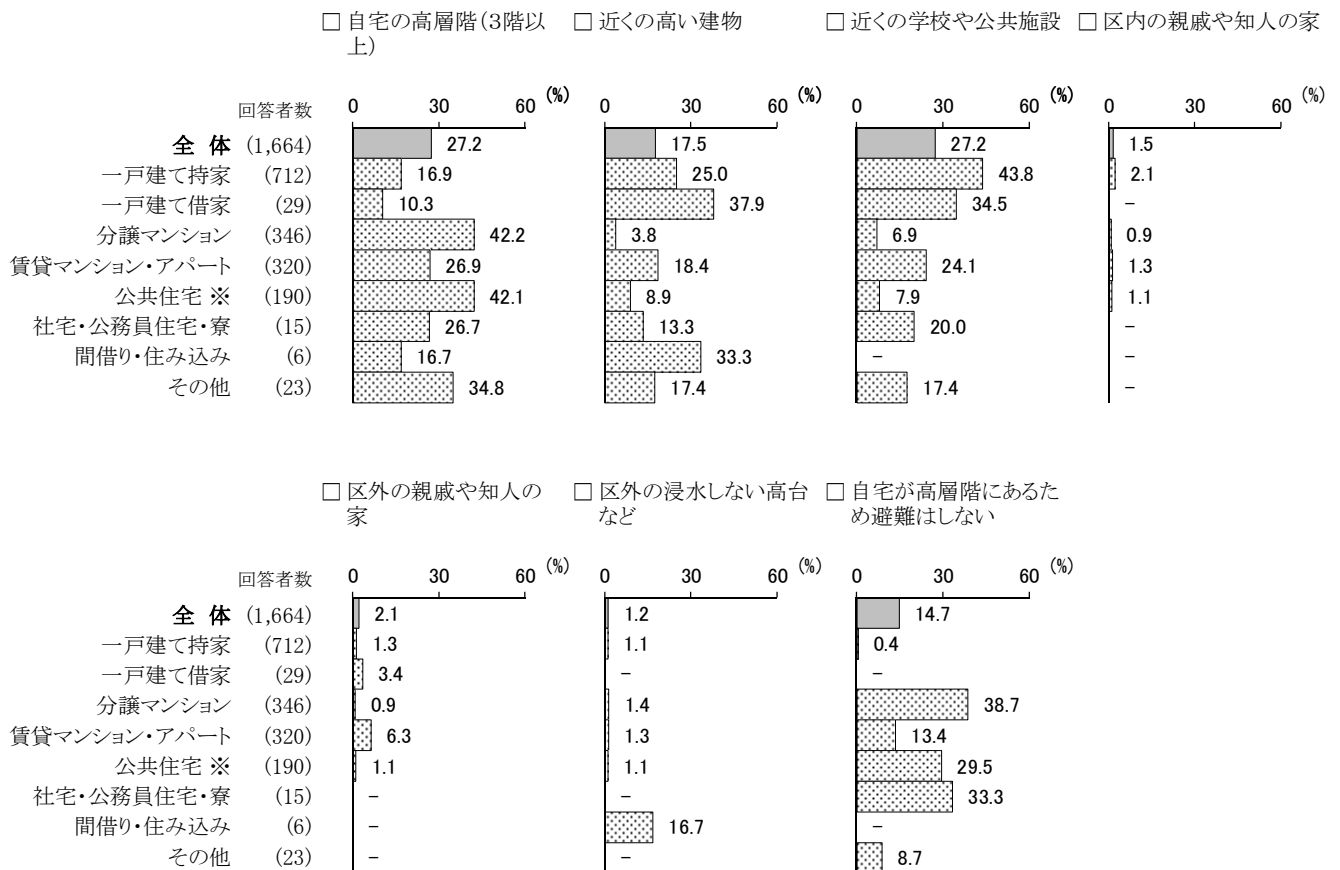
地域別でみると、「自宅の高層階（3階以上）」は、第6地域、第7地域、第10地域で、3割台半ばとなっている。「近くの学校や公共施設」については、第3地域、第9地域、第13地域、第15地域で4割前後となっている。また、「自宅が高層階にあるため避難はしない」については、第2地域で28.2%と、他の地区に比べて際立って高くなっている。

図3-3-2 地域別／荒川がはん濫した際の最初の避難先



住居形態別でみると、一戸建て持家では「近くの学校や公共施設」が43.8%、一戸建て借家では「近くの高い建物」が37.9%と、それぞれ高くなっている。一方、分譲マンション、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅では「自宅の高層階（3階以上）」が、それぞれ42.2%、42.1%と、他の住居形態より高くなっている。また、分譲マンションでは、「自宅が高層階にあるため避難はしない」も38.7%と高くなっている。

図3-3-3 住居形態別／荒川がはん濫した際の最初の避難先



※「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。

